

RSウイルス感染症の定期接種(母子免疫ワクチン)についての説明書

令和8年度より、RSウイルス感染症に対する予防接種事業を開始しました。
接種を希望される方は、接種券の使用により、無料で接種を受けることができます。

○対象となる方

接種時点で、妊娠28週0日から36週6日までの妊婦の方

※過去にRSウイルスワクチン(母子免疫ワクチン)を接種したことのある方も対象です。

○接種スケジュール

妊娠28週0日から36週6日までの間に1回接種。

※接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していないため、妊娠38週6日までに
出産を予定している場合は、医師に相談してください。

○接種回数

妊娠ごとに1回

○接種方法・料金

予防接種は各自医療機関で受けてください。医療機関は実施医療機関一覧をご覧ください。
接種料金は、無料です。

○接種当日、医療機関に持って行くもの

接種券、母子健康手帳

○RSウイルス感染症とは

RSウイルス感染症とは、RSウイルスに感染することで発症する呼吸器の感染症です。数日にわたり発熱やせき、のどの痛みなどかぜの症状が続きます。1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。接触・飛沫感染により伝播するため、手洗いや手指衛生といった基本的な感染対策が有効です。

小さなお子さん(新生児・乳幼児)が感染すると細気管支炎や肺炎など症状が重くなる可能性があります。治療は症状に応じて、酸素投与や点滴、呼吸管理などの対症療法を行います。

○RSウイルス母子免疫ワクチンについて

小さなおさんは、ウイルスや細菌等に対する抵抗力(免疫)が未熟であるため、様々な感染症にかかりやすい状態にあります。

妊娠中のお母さんがRSウイルス母子免疫ワクチンを接種すると、お母さんのRSウイルスに対する抗体の量が増えます。その一部が胎盤を通じて赤ちゃんに移行することで、赤ちゃんがRSウイルス感染症を発症したときに重症化することを予防するといわれています。

ORS ウイルス母子免疫ワクチンの有効性

		生後 90 日時点	生後 180 日時点
母子免疫 ワクチン の効果	RS ウイルス感染による医療受診を必要 とした下気道感染症の予防	6 割程度の予防効果	5 割程度の予防効果
	RS ウイルス感染による医療受診を必要 とした重症下気道感染症(※)の予防	8 割程度の予防効果	7 割程度の予防効果

※ 医療機関への受診を要する RS ウイルス関連気道感染症を有する RS ウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸・SpO₂ 93%未満・高流量鼻カニューラまたは人工呼吸器の装着・4 時間を超える ICU への収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

○接種を受ける前に

RS ウイルス母子免疫ワクチンについて、説明書をよく読み、必要性や副反応についてよく理解したうえで、接種を受けましょう。気にかかることや、わからないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に相談しましょう。

○RS ウイルス母子免疫ワクチンの副反応について

ワクチン接種後、筋肉痛や頭痛、注射した跡が痛くなることがあります。通常 2～3 日のうちに治ります。また、僅かながら注射した跡が赤みを帯びたり、腫れたり、蕁麻疹がみられることもあります。通常通常 2～3 日のうちに収まります。

また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシーがみられることがあります。

※薬事承認において用いられた臨床試験では、妊娠高血圧の発症リスクは増加しませんでした。妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方は注意が必要です。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

○注意事項

(1) 予防接種を受けることが適当でない人

①明らかに発熱がある方

接種を受ける医療機関で測定した体温が、37.5℃以上の場合

②重篤な急性疾患にかかっている方

急性の病気で薬を飲む必要のある方は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性があるため、その日は見合わせるのが原則です。

③RS ウイルスワクチンの成分によって、アレルギーを起こしたことがある方

「アナフィラキシー」とは、接種後 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどい蕁麻疹が出る、吐き気や嘔吐、声が出しにくくなる、息苦しいなどの症状が続き、血圧が下がっていきます。

④その他、医師が不適当な状態であると判断した方

(2) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない方

①妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方

②血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方

③心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他の慢性の病気で治療を受けている方

④予防接種を受け、2 日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方

- ⑤RS ウイルスワクチン（アブリスボ）の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方
- ⑥けいれんを起こしたことがある方
- ⑦免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方

○他のワクチンとの同時接種・接種間隔

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、海外の知見で、百日咳菌の防御抗原を含むワクチンとの同時接種で、百日咳菌の防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告があり、接種間隔等については医師と相談してください。

○接種を受けた後の注意点

ワクチンの接種後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしましょう。

注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。

接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動は控えるようにしてください。

○予防接種健康被害救済制度について

予防接種法に基づく予防接種を受けた方に健康被害が生じた場合、その健康被害が接種を受けた影響であると厚生労働大臣が認定したときは、①医療費②医療手当③障害年金④遺族年金⑤遺族一時金⑥葬祭料等の給付が受けられます。